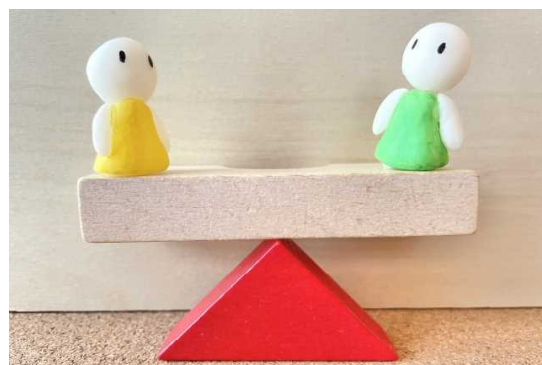


	進取の気概 (校長室だより)	有田市立箕島中学校 自主 友愛 剛健	R3・10・8
			No. 37

全国学力・学習状況調査の結果について、和歌山県や全国の平均と比較する形で箕島中学校の状況をお知らせしました。このことに関連して「比べる」ということについて触れておきたいと思います。

今の自分が全体の中でどの位置にあるのか、どんな傾向にあるのかを知るために、人と比べたり平均と比べたりすることはある意味、必要なことだと思います。ただ、何事においても、必要以上に人と比べることにこだわりすぎることは良いことではありません。自分に「自信」を持てなくなってしまいます。



人と比べることにこだわってしまうと、「人よりテストの点数がいいから自信がある」とか「人より足が速いから自信がある」というふうに、常に人と比べないと自信を持てなくなってしまいます。しかし、世界にはテストの点がいい人は山ほどいます。足の速い人だって山ほどいます。だから人と比べて、それを根拠にして自信を持とうとしてもきりがないのです。自分がしんどくなってしまいます。他の人と比べて良かったとか悪かったとか、そんなことは大した問題ではないということです。

大切なのは、人と比べることではなく、今までの自分と比べることです。つまり、1年前の自分、1か月前の自分、昨日の自分と比べてどれだけ自分が変わったのか、どれだけ成長できたのかというように、過去の自分と比べて自分を評価することです。

他人と比較して、他人が自分より優れていたとしても、それは恥ではない。

しかし、去年の自分より今年の自分が優れていないのは立派な恥だ。

ラポック(イギリスの探検家)

中間テストもそろそろ全部戻ってくる頃だと思います。テストの点数は、本来は人と比べるためのものではありません。何が分かっているか、何が分かっていないのかを示してくれるものです。自分が理解できていない所をしっかりと把握し、理解できるようにすることが成長につながります。そうすると、たとえ今回のテストの点数が良くなかったとしても、テスト前の自分と比べて確実に成長した自分の姿がそこにはあるはずで、そして、それが確かな自分の「自信」となります。